

東京・春・音楽祭

-東京のオペラの森 2013-



東京春祭マラソン・コンサート vol.3

ワーグナーとヴェルディ ～生誕 200 年に寄せて

第 I 部 朝《リング》～ヴァイオリンとピアノによる《ニーベルングの指環》

日時：2013年3月23日(土) 11:00 開演 会場：東京文化会館 小ホール

●ワーグナー：

「ジークフリート・パラフレーズ」(ウィルヘルミ編)

このパラフレーズ作品のもとになっているのは1870年冬、妻コジマの誕生日の贈り物としてワーグナーが作曲した《ジークフリート牧歌》である。編曲を行ったアウグスト・ウィルヘルミは、19世紀ドイツの名ヴァイオリニスト。バッハ「管弦楽組曲 第3番 BWV1068」の第2楽章を編曲した《G線上のアリア》でも有名である。

楽劇《ラインの黄金》より「ラインの乙女たち」(マイヤー編)

《ラインの黄金》は、4部作《ニーベルングの指環》の序夜にあたる楽劇。その第1場冒頭で、ライン川の川底でラインの乙女たちが、世界を支配する指輪の材料となる黄金の秘密について歌う。編曲を行ったフリッツ・マイヤーは、19世紀から20世紀初頭にかけて活躍したドイツのヴァイオリニスト。

楽劇《ワルキューレ》より「愛の歌」(シンディング編)

《ワルキューレ》は、《指環》の第1日にあたる楽劇。もとになっているのは、主人公ジークムントが第1幕で歌う「春と愛の歌」である。編曲を行ったクリスティアン・シンディングは、叙情的な作品を多く書いたノルウェーの作曲家。ワーグナーやリストの影響を受け、その生涯のほとんどをドイツで過ごした。

楽劇《ワルキューレ》より「死の予告」

(ブランドシュテットナー&シュルツェ=ビーザンツ編)

もとになっているのは《ワルキューレ》第2幕第4場、知の女神エルダの娘ブリュンヒルデから、ジークムントが死の予告を受ける場面の音楽。暗く不吉な「死の予告」のモチーフが奏される。クレメンス・シュルツェ=ビーザンツとブランドシュテットナーによる共同編曲。

楽劇《ジークフリート》より「小鳥たちは歌った」(クリントヴォルト編)

《ジークフリート》は《指環》の第2日にあたる楽劇。もとになっているのは、その第1幕第1場で、ジークムントの子ジークフリートが養育係のミーメから自身の出生の秘密を明かされる場面の音楽。編曲を行ったカール・クリントヴォルトは、ワーグナーとも親交があり、熱烈なワグネリアンだった。

楽劇《神々の黄昏》より「葬送行進曲」(ゲルトナー&佐藤久成編)

《神々の黄昏》は《指環》の最後・第3日を飾る楽劇。このジークフリートの葬送行進曲は第3幕第3場への間奏として現れ、ワーグナー自身の葬儀にも演奏されたという。ドイツのヴァイオリニスト、ヘルマン・ゲルトナーの編曲に佐藤久成がさらに手を加えたものである。

楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》より「優勝の歌」(ウィルヘルミ編)

この曲は、1867年に完成した楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》第3幕の歌合戦で、フランケン地方の若騎士ヴァルター・フォン・シュトルツィングによって歌われる。編曲者のウィルヘルミは、バイロイト音楽祭でコンサートマスターを務めたヴァイオリニストでもあった。